

1月15日 聖日礼拝

前奏 招 詞 イザヤ書 60 章 2 節

「見よ、闇が地をおおっている。暗黒が諸国の民を。しかし、あなたの上には主が輝き、主の栄光があなたの上に現れる。」アーメン

賛美 聖歌 40

賛美 鹿のように (2 回)

主の祈り 詩篇 104 篇 24 ～ 32 節

交読 詩篇 104 篇 24 ～ 32 節

礼拝祈禱

使徒信条

聖書朗読 出エジプト記

説教 モーセの執り成しと回復 33 章 12 ～ 17 節 32 章 30 ～ 35 節

賛美 聖歌 55 2 荻野泰弘牧師

献金 聖歌 37 6

頌栄 聖歌 37 6

祝禱

報告

後奏 感謝祈禱

■聖歌 40 「聖なるかな」

- ①聖なるかな 全能の神 われら朝まだき ほめまつる
みつにまして ひとりの神 愛にみつる 強き主を
- ②聖なるかな 聖徒たちも みつかいたちも こうべをたる
昔いまし 今も いまし また とわに ます神に
- ③聖なるかな 罪ある目は なが み栄えを 見まつらねど
力と愛と きよきことの まどかさ たぐいあらじ
- ④聖なるかな 全能の神 つくられしものは ほめたとう
三(み)つにまして ひとりの神 愛にみつる つよき主を

■鹿のように

谷川の流れを慕う 鹿のように 主よ わが魂 あなたを慕う
あなたこそ わが盾 あなたこそ わがちから
あなたこそ わが望み われは 主を仰ぐ

■主の祈り 天にましますわれらの父よ。ねがわくは 御名^{みな}をあがめさせたまえ。御国^{みくに}をきたらせたまえ。御心^{みこころ}の天になるごとく、地にもなさせたまえ。われらの日用^{にちよう}の糧^{かて}を今日もあたえたまえ。われらに罪をおかすものを われらが 赦すごとく、われらの罪をも赦したまえ。われらを ころみにあわせず 悪より救いいだしたまえ。国と力と栄えとは かぎりなく なんじのものなればなり。アーメン

■交読 詩篇 104 篇 24～32 節

- 24 主よあなたのみわざはなんと多いことでしょう。あなたは知恵をもってそれらをみな造られました。地はあなたのもので満ちています。
- 25 そこには大きく広い海があり這うものや生き物は数えきれません。小さなものも大きなものも。
- 26 そこを船が行き交いあなたが造られたレビヤタンもそこで戯れます。
- 27 彼らはみなあなたを待ち望んでいます。あなたが時にかなって食物をお与えになるのを。
- 28 あなたがお与えになると彼らは集めあなたが御手を開かれると彼らは良いもので満ち足ります。
- 29 あなたが御顔を隠されると彼らはおじ惑い彼らの息を取り去られると彼らは息絶えて自分のちに帰ります。
- 30 あなたが御霊を送られると彼らは創造されます。あなたは地の面を新しくされます。
- 31 主の栄光がとこしえにありますように。主がご自分のみわざを喜ばれますように。
- 32 主が地に目を注がれると地は震え山々に触れられるとそれは煙を上げます。

■使徒信条 われは天地のつくりぬし、全能の父なる神を信ず。われはそのひとりご、われらの主、イエス・キリストを信ず。主は聖霊によりてやどり、おとめマリヤよりうまれ、ポンテオ・ピラトのもとにくるしみをうけ、十字架につけられ、死にてほうむられ、よみにくだり、三日目に死人のうちよりよみがえり、天にのぼり、全能の父なる神の右に座したまえり。かしこよりきたりて 生けるものと死にたるものとを さばきたまわん。われは聖霊を信ず。聖なる公同の教会、聖徒のまじわり、罪のゆるし、からだのよみがえり、とこしえのいのちを信ず。アーメン

■聖書朗読 出エジプト記 32章30～35節、33章12～17節
出エジプト記 32章30～35節

- 30 翌日になって、モーセは民に言った。「あなたがたは大きな罪を犯した。だから今、私は主のところに上って行く。もしかすると、あなたがたの罪のために宥めをすることができるかもしれない。」
- 31 そこでモーセは主のところに戻って言った。「ああ、この民は大きな罪を犯しました。自分たちのために金の神を造ったのです。」
- 32 今、もしあなたが彼らの罪を赦してくださるなら——。しかし、もし、かなわないなら、どうかあなたがお書きになった書物から私の名を消し去ってください。」
- 33 主はモーセに言われた。「わたしの前に罪ある者はだれであれ、わたしの書物から消し去る。」
- 34 しかし、今は行って、わたしがあなたに告げた場所に民を導け。見よ、わたしの使いがあなたの前に行く。だが、わたしが報いる日に、わたしは彼らの上にその罪の報いをする。」
- 35 こうして主は民を打たれた。彼らが子牛を造ったからである。それはアロンが造ったのであった。

出エジプト記 33章12～17節

- 12 さて、モーセは主に言った。「ご覧ください。あなたは私に『この民を連れ上げ』と言われます。しかし、だれを私と一緒に遣わすかを知らせてくださいません。しかも、あなたご自身が、『わたしは、あなたを名指して選び出した。あなたは特にわたしの心になっている』と言われました。」
- 13 今、もしも私がみこころにならなければ、どうかあなたの道を教えてください。そうすれば、私が見え、みこころになうようになります。この国民があなたの民であることを心に留めてください。」
- 14 主は言われた。「わたしの臨在がともに行き、あなたを休ませる。」
- 15 モーセは言った。「もしあなたのご臨在がともに行かないのなら、私たちをここから導き上げてください。」
- 16 私とあなたの民がみこころにならなければ、いったい何によって知られるのでしょうか。それは、あなたが私たちと一緒にいき、私とあなたの民が地上のすべての民と異なり、特別に扱われることによるのではないのでしょうか。」
- 17 主はモーセに言われた。「あなたの言ったそのことも、わたしはしよう。あなたはわたしの心にかない、あなたを名指して選び出したのだから。」

■聖歌 5 5 2 「悩むよびとのために」

- ① なやむ よびとのために さきいでし 花あり
その 香(か) 今や世界の すみずみに およべり

※ 香り たえなる シャアロンの野花よ きたり ひらけや この心の中に

- ② 花は まず ガリラヤの うみべに さきいでて
めしうどを ときはなち やめる をば いやしぬ

- ③ 心なき くにとに ふまれ ちらされしが
その根より もえいでて いまや 世界に満つ

■頌栄 聖歌 3 7 6 「父 御子 御霊の」

父・御子・みたまの おおみかみに とこしえかわらず
御^み栄^きえあれ 御^み栄^きえあれ アーメン